

令和3年（2021年）の妙高山の火山活動

気象庁地震火山部
火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しています。

○噴火警報・予報の状況、2021年の発表履歴

2021年中変更なし	噴火予報（活火山であることに留意）
------------	-------------------

○2021年の活動概況

・噴気・地熱等の状況（図1～3）

噴気異常等に関する通報はありませんでした。

新潟県消防防災航空隊の協力により4月20日に実施した上空からの観測では、前回（2020年4月）の観測同様、火口原南側の地獄谷噴気地帯から噴気が上がっているのが確認されました。その他の場所では噴気は確認されず、赤外熱映像装置による観測でも異常はみられませんでした。

・地震や微動の発生状況（図4）

山体付近に発生する地震は少なく、周辺の地震活動にも特に変化はありませんでした。



図1 妙高山 図2及び図3の撮影方向

この資料は気象庁ホームページ (https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php) でも閲覧できます。

本資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院の『電子地形図（タイル）』『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています。

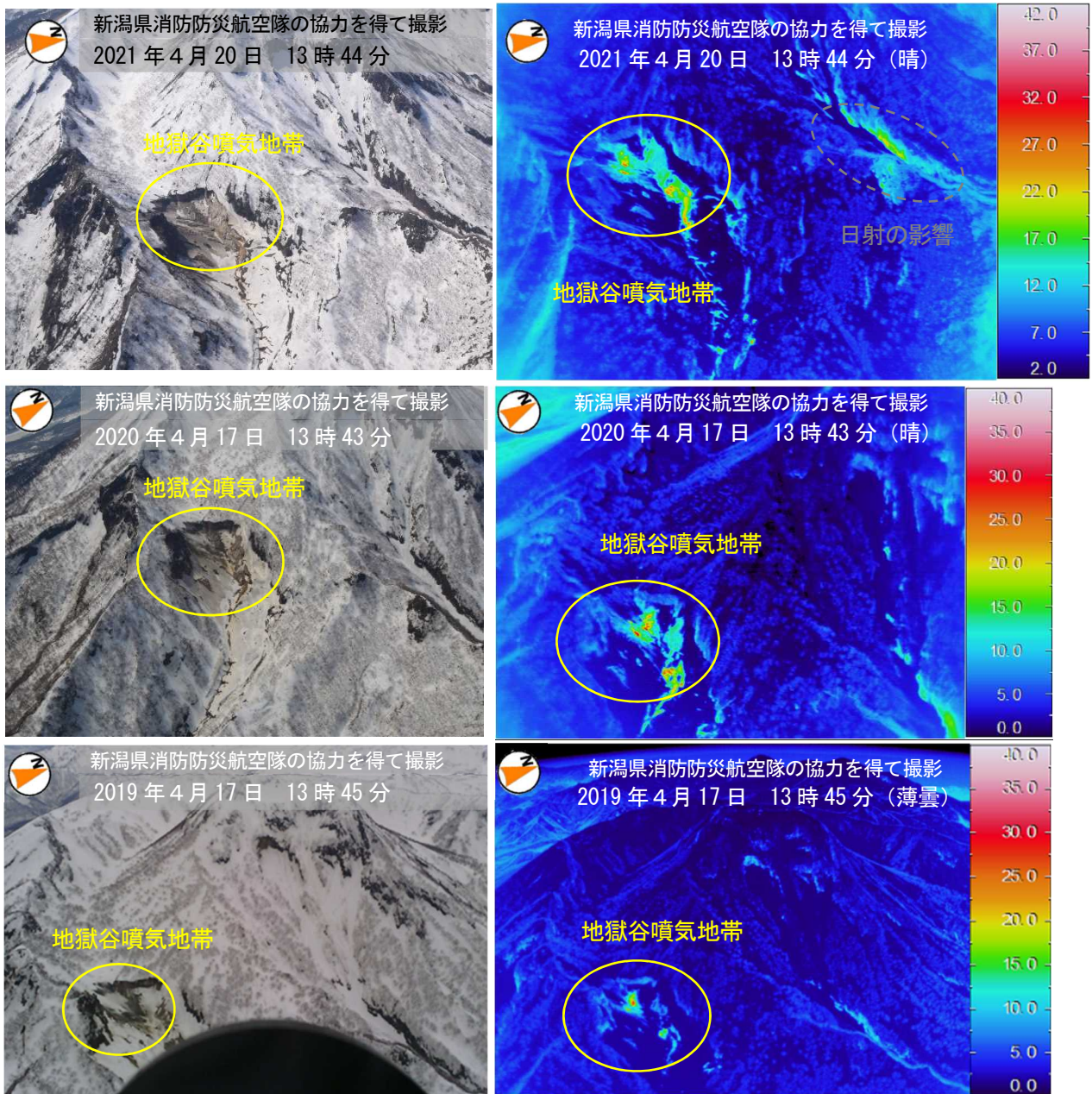


図2 妙高山 噴気地帯の可視画像および赤外熱映像装置による地表面温度分布

- ・火口原南側の地獄谷噴気地帯から、20~30m程度の噴気が上がっていることを確認しました。
- ・噴気地帯の様子に特段の変化は認められませんでした。

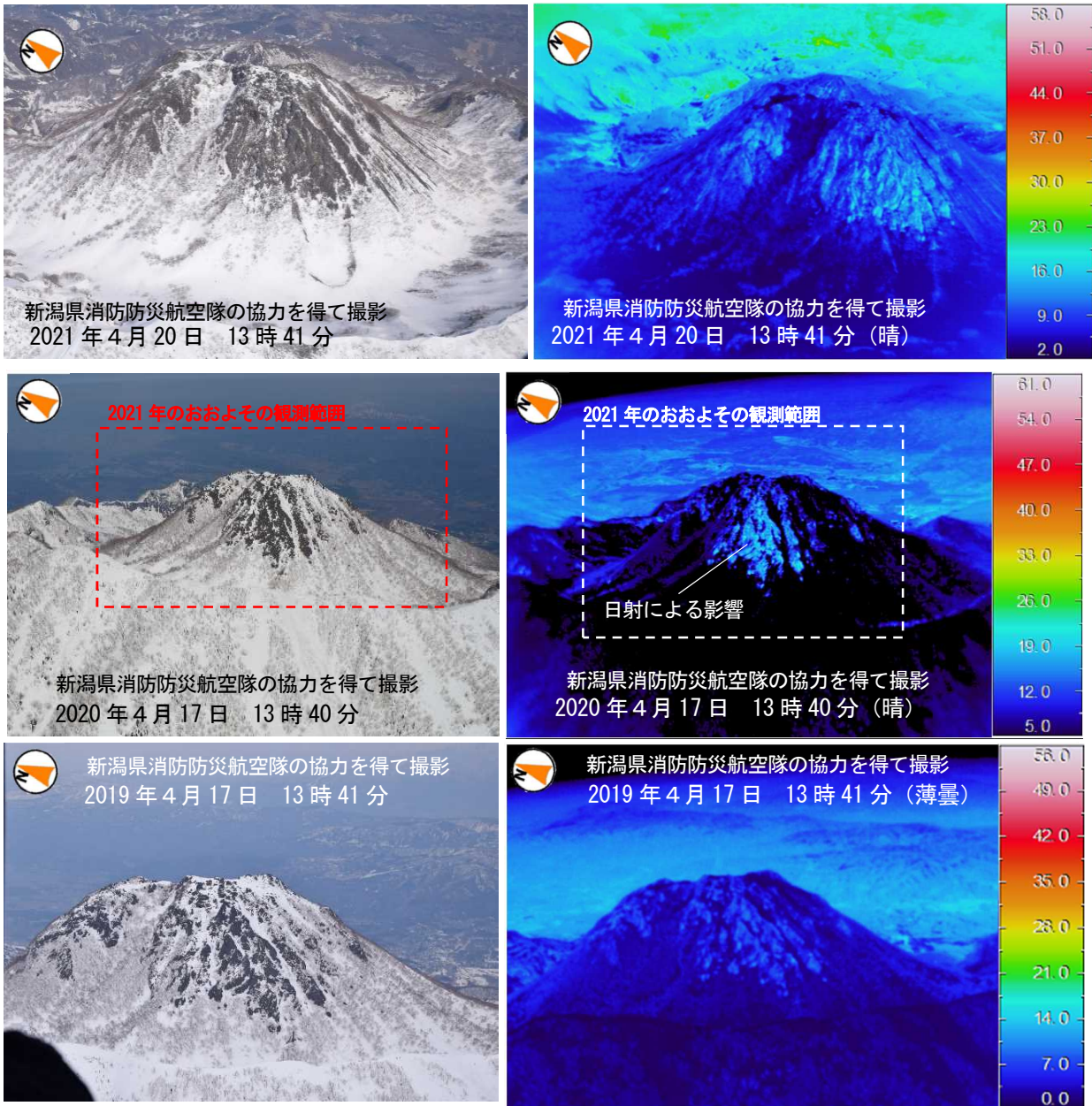


図3 妙高山 山頂付近の可視画像および赤外熱映像装置による地表面温度分布

・赤外熱映像装置による観測では、山頂付近で異常はみられませんでした。

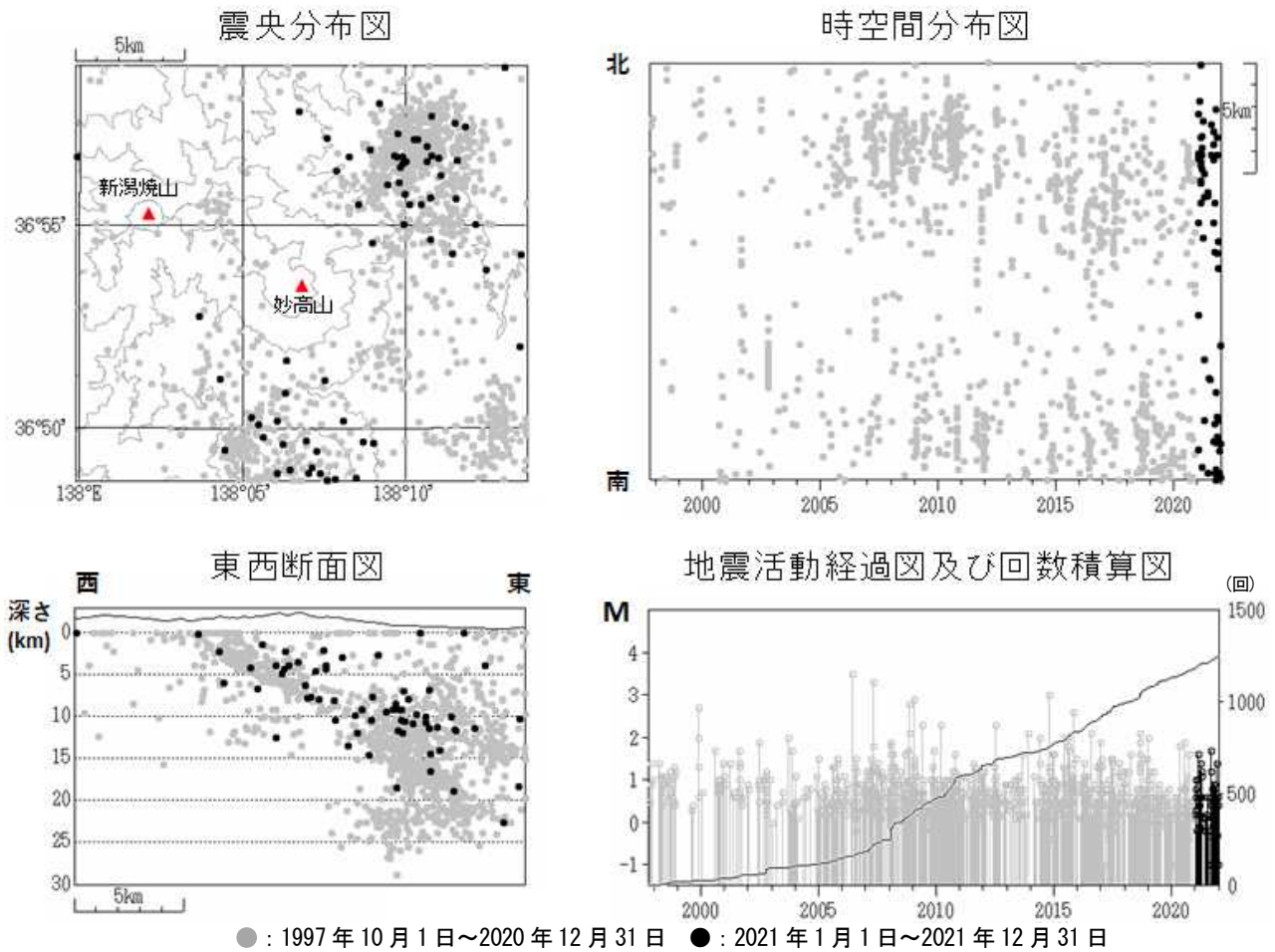


図4 妙高山 広域地震観測網による周辺の地震活動（1997年10月1日～2021年12月31日）

広域地震観測網により震源決定したもので、震源の深さは全て海面以下として決定しています。

図中の震源要素は一部暫定値が含まれており、後日変更することがあります。

この図では、関係機関の地震波形を一元的に処理し、地震観測点の標高を考慮する等した新手法で得られた震源を用いています（ただし、2020年8月以前の地震については火山活動評価のための参考震源）。

2022年1月25日現在、次の期間の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、その前後の期間と比較して微小な地震での震源決定数の変化（増減）が見られます。

①2020年9月1日から10月23日まで、②2021年1月9日から3月7日まで、③2021年4月19日から12月5日まで